

11 月 留学月例報告書【フランス・ニース】

鱸真菜

01- 最近の学校

授業がだんだん進んできて、課題も少しずつ増えてきました。授業内容は、まだ 100% 理解することはできていませんが、なんとか周りに助けてもらいながら頑張っています。

現在、私はトータルで 8 つの授業を受講しています。その中でも、特に重要で時間を多く割く授業が 2 つあります。今回はその一つであるパートナーシッププロジェクトについてお話しします。

この授業では、初めに 7 つの企業から一つを選び、学生たちがその企業の課題に取り組む形で進められます。授業は火曜日に 2 時間、さらに隔週で木曜日と金曜日の朝から夕方まで実施されるなど、かなりの時間が割かれるのが特徴です。プロジェクトは M1（修士課程 1 年生）の学生が主導となり、グループワークを中心に進行しています。

11 月中旬には中間プレゼンが行われ、学内の先生方と外部から招かれた 3 人の方々に向けて、進捗を発表しました。私は当初、発表の担当ではなかったのですが、発表当日の朝になって急遽スライド 1 枚分を発表するよう告げられ、大変焦りました。個人のプロジェクトではないため、他のメンバーに迷惑をかけてはいけないという責任感から、午前中の準備時間を使い、発表内容を必死で暗記しました。

結果的に、発表は無事に問題なく終わることができ、「発表よかったよ」と声をかけてもらったときは、心からホッとし、同時にとても嬉しく感じました。

この経験を通して、周りの人々に助けられることの大切さを改めて実感しました。今後も、チームの一員として自分にできる最大限の貢献をしていきたいと思っています。



02- 授業の重複

現在、英語とフランス語の両方の言語授業を受講しています。それぞれの授業は、言語レベルに応じてクラス分けがされ、隔週で開講されています。そのため、私は英語とフランス語を交互に受講する形でスケジュールを組んでいました。

しかし、ある週で英語の開講スケジュールがずれていたようで、いつも所属していたグループの授業に参加できなくなる事態が発生しました。実際、英語の授業に向かった際、教室には見覚えのないクラスメイトが集まっており、驚きました。その場で先生に確認したところ、私のクラスはすでに前週に実施されていたことが判明しました。しか

し、前週はフランス語の授業が重なっており、英語の授業に出席することができませんでした。この問題について対応を求めたものの、先生ごとに異なる説明や対応がされます。英語とフランス語の両方を受講することは例外的なケースであることから、スケジュール調整の難しさがあるのかもしれませんが。とりあえず、ここでしか学べないことの方が重要だと思い、フランス語の授業に合わせて今は出席しています。

03- アジア人へのイメージ？差別？

このテーマに触れるのは少々躊躇しましたが、留学中に感じたことを率直に記録したいと思います。

まず、差別に関してですが、日常生活の中で明確に差別される場面はほとんどありません。ただし、一部の人がアジア人に対してステレオタイプなイメージを持っていることは否定できません。例えば、授業中にアジア人が映った動画が流れた際、一部の学生が吊り目のジェスチャーをしているのを目にしたことがあります。また、観光地や街中で「ニーハオ」と挨拶されることもありました。些細なことなので、私自身声を上げたことはないのですが、捉えようによっては差別になることもあるなあ。と感じています。

また、これは差別とはまた別の話ですが、私のイントネーションや服装について、なんか話されているなあ、笑われているなあ。と感じることも時折あります。こうした状況は決して心地の良いものではありませんが、これは全体のごく一部です。そのため、深く気にしすぎず、自分と向き合い、理解してくれる人たちとの関わりを大切につることが大切だと考えながら、生活を送っています。このような経験を通じて、異文化理解の難しさと、自分の中での適応力の重要性を改めて実感することができました。今後も、前向きに残りの留学生活を送りたいと思います。

04- フランスから見た日本

留学生活を始めてから、これまで以上に日本の素晴らしさを実感する機会が増えました。私の通う学校には、想像以上に日本に関心がある学生が多くいます。彼らの興味は、観光地やアニメ文化、食事といった分野にとどまらず、日本製品の質の高さに感動している人も多いです。例えば、ファッションの授業を担当している先生は、日本の製品を重宝しているらしく、ものすごい情熱で愛を説明してきます。特にお気に入りだと聞いたのが、フリクションの消えるボールペンです。このペンは熱でインクが消えるので、服の型紙制作にぴったりだそうです。自分が作ったわけではありませんが、こうした日本の製品が高く評価されているのを見ると、なんだか誇らしく感じます。

また、さまざまな学生から日本に関する質問を受ける機会も多く、海外から見た日本文化への関心の高さを実感しています。しかし、そういった質問に答える際に難しさを感じることもあります。例えば、アニメについて聞かれたとき、現地では日本とは異なる名前と呼ばれていることがあり、画像を見て初めて理解できたこともありました。こ

うした経験から、海外での日本文化の受け止め方や名前の違いについて、事前にもっと学んでおくべきだったと反省しています。

05- モナコのお祭り？

同級生に誘われて、モナコで開催されているフェアに行きました。モナコはニースから車で30分もかからない距離にある小さな国で、美しい景観と高級感のある街並みが特徴的です。このイベントは、日本ではあまり見られないような派手な演出や、スリル満点のアトラクションが印象的でした。特に現地の人々のフランクな雰囲気が際立っており、初対面同士でもアトラクションを一緒に楽しんでいる様子を眺めているだけでも十分に楽しむことができました。

モナコではニースとはまた違う街並みを楽しむことができるので、一度訪れてみることをお勧めします。



06- イタリアへの小旅行

11月の初めに4連休があったので、イタリアのヴェネツィアとローマに遊びに行きました。ニースからイタリアへは飛行機か高速バスで行くことができます。予約する時期によっては、飛行機が一番安い交通手段であったりするので、こんな安く違う国に行けるの？と驚くことが多々あります！今回私は、陸路で国境を越えてみたいと思ったので行きはバスを利用して、約10時間かけてニースからベネチアに行きました。当たり前ですが、国境を越えるバスに乗る時はパスポートが必要になります。バスに長時間揺られて、早朝に到着しました。観光地であるベネチアも早朝は全然人がおらず、住民の方達のゆったりとした生活を見ることができました。早朝はまだお店も開いていないので、本島から40分ほど船に揺られて、ブラーノ島へ向かいました。この島は漁師の島で、漁師さんが漁から帰ってきたときに自分の家がわかるように家ごとに違う色が塗られているのが特徴的なとても綺麗な島です。フォトジェニックな島なので、観光客で溢れかえるような有名な観光地なのですが、早朝に行ったので、美しい島の風景をゆっくり堪能することができました。この島は、主に街の景色を楽しむのがメインなので、今後行かれる方は早朝に行くことをお勧めします。本当に綺麗です。その後も、ムラーノ島でガラス製品を楽しんだり、本島でゴンドラをみたり、のんびりした時間を過ごしました。ベネチアは地球温暖化の影響などからいつか沈んでしまうと言われているので、この目で見ることでよかったです。

2日目のローマでは、the 観光地を巡って過ごしました。スペイン広場やコロッセオ、真実の口など…。トレビの泉も訪れたのですが、ちょうど工事中で水が流れている様子は見られ

ませんでした。

